



戦争をさせない
1000人委員会
Anti-War Committee of 1000

信州ニュース

戦争をさせない1000人委員会・信州 2015年4月20日 第25号

〒380-0838 長野市県町 532-3 県労働会館

電話 026 (234) 2116 FAX 026 (234) 0641 E-mail vi4h-kt@asahi-net.or.jp

HP <http://sensouwasasenaishinshu.jimdo.com/>  https://twitter.com/1000_shinshu

 <https://www.facebook.com/sensousasenaishinshu>

長野駅前で戦争法案に反対する街頭宣伝

1000人委員会・信州／ながの 30人でチラシ配布、署名活動も

「戦争をさせない1000人委員会・信州」と「1000人委員会・ながの」は合同で4月19日、JR長野駅前で戦争準備法案に反対する街頭宣伝を行いました。19日は日曜で、善光寺の御開帳と長野マラソンが重なり駅前には多くの人出でにぎわいました。街頭行動には、呼びかけ人や賛同者、賛同団体から約30人が参加。道行く人にチラシを配布したり、戦争をさせない全国署名を呼びかけたりしました。

呼びかけ人では、茅野實さん（県環境保全協会顧問）や細川順子さん（ながの自分史コアセンター主宰）、村山智彦さん（県護憲連合代表委員）が参加。賛同者の一人である輪胡正さん（長野市）は、「戦争はすべてを破壊する。今、黙ってしまうことで後々後悔することになってはいけない」などと自分の思いを書き記したアピールをマイクを握って訴えていただきました（**輪胡さんのアピールは裏面に掲載**）。署名に応じてくれた高校生は「若い私たちが戦争となれば巻き込まれることは明らか。絶対に嫌だ」と、一緒にいた友達にも声をかけていました。

連休明けには、いよいよ戦争法案が閣議決定されて国会に提出されます。平和な日本、憲法9条の正念場を迎えます。戦争法案の廃案をめざして行動しましょう！



丁寧に説明しながら
チラシを配布。



横断幕でアピール。



多くの市民が署名に
応じてくれた。



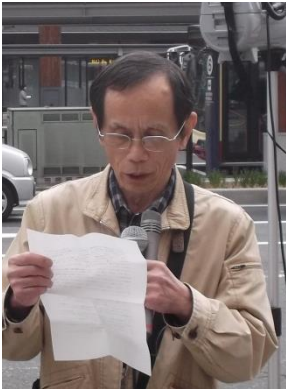
呼びかけ人の
茅野實さん。



マイクでアピールする呼びかけ人の村山智彦さん。

長野駅前アピール「危険な道を止められる最後のチャンス」

「1000人委員会・信州」賛同者 輪 胡 正（長野市）



私は、1945年（昭和20年）終戦から間もなくして、この世に生を受けました。当時日本は敗戦直後で皆が貧しく、食べることもさへ困難な状況にありました。こんな状況の中で多くの日本人が、戦争はもうこりごりだ、平和な国家を創りたいと考えたのは当然のことだったと思います。

勿論、私自身戦争を直接体験していませんが、物心ついてから、親や学校の先生などから戦争の悲惨さについて幾度となく聞かされ、そして時には戦争の残虐性についても聞くこともありました。そんな中で生まれ育った私の体には、平和への強い思いが知らず知らずのうちに染み込んで行きました。

私たちの世代と比べ、今の若い人たちは、戦争体験を聞く機会が非常に少ないと思います。私自身子供たちにこのような話はしたことがありません。戦争体験者が少なくなっている現在では、なかなか若い世代に戦争の悲惨さ、

残虐性を伝えることはできにくくなっているのも仕方ないでしょう。でも人間には体験しないことでも想像することが出来ます。若い皆様、是非想像力を十分に働かせて戦争の悲惨さ、残虐性に思いを巡らせていただきたいと思います。

私は、戦前、日本人はなぜ戦争への道を止めることが出来なかったのか考えることがあります。私とその時代に生きていたらたして戦争に反対したでしょうか？もしかしたら戦争への道に加担していたのではないだろうか？はっきり言って自信はありません。しかし私たち日本人はあの悲惨で残虐な戦争を経験しました。この経験こそが戦争抑止の力となるのです。我々日本人は二度と戦争への道を許してはなりません。

今、日本政府の目指している道はいつか来た道と同じです。一度動き出したら流れを止めることは容易ではありません。ほとんど不可能だと思います。今こそ、危険な道を止められる最後のチャンスだと思います。黙っていることは、今の政府が目指している戦争への道を推進することです。

後世の人から、なぜあの時代の人々は戦争への歩みを止めることが出来なかったのだろうかと言われたいために、今行動を起こしましょう。

どうか若い世代の皆さん、他人事だとは思わず、自分たちや子供たちのこととして考えていただきたいと思います。

▼長野駅前配布したチラシ



いらない！戦争準備法案

- 集団的自衛権の行使を容認した「閣議決定」の撤回を！
- 日本の若者の血を流すな！自衛隊員の血を流すな！

安倍政権によって、日本が戦後一貫して取ってきた「専守防衛」を基本とする安全保障政策が根幹から覆されようとしています。政府・与党間で進んでいる安全保障法制の「改正」協議では、他国への武力攻撃を日本への攻撃とみなして自衛隊が武力行使する集団的自衛権の行使容認、米軍など外国軍の後方支援を日常的に行う恒久法の制定、「周辺」という地理的な制約を取っ払い、全世界どこでも自衛隊が戦闘行為の後方支援活動に従事する法改正など、自衛隊の活動が際限なく拡大され、まさに“普通の軍隊”として再編成されることとなります。

4月末には、日米両政府は「日米防衛協力のための指針」（日米ガイドライン）の18年ぶりの改定に合意する予定です。米軍と自衛隊の軍事協力を全世界規模で展開する方向が合意される見込みです。日米政府間の「行政文書」に過ぎないガイドラインが、まだ国会にも提出されていない安全保障関連法制「改正」案に先立ち、今までの法体系を大幅に変更する内容で合意されること自体が大問題です。

政府は、4月中旬から5月上旬まで与党協議をすすめ、5月中旬にも安全保障法制「改正」案の閣議決定を行わない国会に提出、

6月24日までの国会会期を大幅に延長して一気に成立を図ろうとしています。

戦後日本が曲がりなりに平和を維持できたのは、憲法9条が自衛隊の軍備拡大や暴走を抑さえ込んできたからです。このような安全保障法制の「改正」がまかり通れば、日本は本当に「戦争のできる国」となってしまいます。戦争準備法案に反対する声を政府に届けましょう。



戦争をさせない1000人委員会・信州

〒380-0838 長野市県町532-3 県労働会館
TEL 026 (234) 2116 FAX 026 (234) 0641
E-mail vi4h-kt@asahi-net.or.jp
HP <http://sensouwasasenaishinshu.jimdo.com/>